



「すき家の牛丼がやってくる!」 — 笑顔あふれる 食育イベントを開催 —



2025年10月14日、日進町こども文化センターにて、ゼンショー従業員組合 ZEAN の皆さまのご協力のもと、「すき家の牛丼がやってくる!」を開催しました。全66名の参加があり、「すき家」に関するクイズが出題され、子どもたちが楽しみながら「食」について学べるよう工夫しました。問題には「すき家の牛丼はこの国のお肉?」「材料や必要な工程は?」といった身近な内容もあり、子どもたちは元気いっぱいに手を挙げて答えていました。会場は笑顔と歓声に包まれ、活気あふれる時間となりました。クイズの後にはお待ちかねの飲食タイムがあり、参加者全員に「すき家」の牛丼・おしんこ・味噌汁が振る舞われました。湯気の立つ牛丼を前に「おいしい!」という声があちこちから上がり、児童と保護者、職員



※こぶんたは、当財団が管理運営するこども文化センター41施設のキャラクターです。 ※わくりんは、当財団が運営するわくわくプラザ77施設のキャラクターです。

かわさき市民活動センターは…

つながりから生まれる誰もが住みやすい地域社会を目指して、市民活動に必要なことをワンストップでサポート。多世代・他分野が集う場と子どもの居場所づくりを行っています。

開館時間 午前9時～午後9時（日曜・祝日は午後5時半まで）
※各施設の利用時間は異なります

休館日 第3月曜日（祝日の場合は火曜日）

ナンバーゼロ発行終了のお知らせ

1982年の(公財)かわさき市民活動センター創設以来、機関誌として発行していた「ナンバーゼロ」は今号で通算316号となりました。今後はウェブ媒体での情報発信に注力していくため、「ナンバーゼロ」は317号をもちまして終了いたします。ここまで「ナンバーゼロ」を応援してくださり、ありがとうございます。次号では「ナンバーゼロ」の歴史を振り返る特集を予定しておりますので、どうぞお楽しみに!

Map



ポータルサイト「応援ナビかわさき」
<https://ouenavi-kawasaki.com/>



デザイン：スミナツコ

Number Zero ナンバーゼロ

2026年 冬号
通巻 No.316

かわさき市民活動センター
ボランティア・市民活動情報紙

特集 | 子どもと地域をつなぐ こども文化センター



2027年度
オープン予定
**川崎市大師
コミュニティセンター**
指定管理者の受託が
決定しました!

柿生こども文化センター 柿生こども美術館

夢中で筆を持つ真剣なまなざし。柿生こども文化センターで開催された柿生こども美術館の企画の一つである空間アート・ワークショップでのひとこまです。壁や床一面に広がる紙と、真っ白なドラゴンの模型をキャンパスにしてウロコや模様を自由に描き、空間全体を彩るアートを作りました。この企画に協力したスタジオチェントプラスの太刀川さんは、美術教室を

立ち上げるときにこども文化センターを活動の場の一つにしたいと真っ先に交渉に向かったそう。そこにいたのは、かつて自分が子どもの時に利用していたこども文化センターのスタッフでした。長年、川崎市内のこども文化センターが地域の活動拠点となり、根付いてきたことで空間アート・ワークショップが実現しました。

中面に続きます

麻生区 柿生こども文化センター

柿生こども文化センターで開催された「かきのわ〜芸術祭〜」で、切り紙アート体験の企画を提供したのは、大藺一樹さん。フリーハンドで次々生み出される生き物たちは実にリアルです。大藺さんが自己流で切り紙を楽しみ、住んでいる団地の催し物などで披露していたところ、こども文化センターの運営協議委員でもある団地自治会の役員さんが「うちの団地にこんな面白い人がいるのだけど、こども文化センターでできることがあるのではないかとつないでくれました。お母さんが軽快なトークで場を盛り上げる横で、黙々と紙を切っていた大藺さんが生き物を生み出すと、子どもたちからは「わあっ!」「すごい!」と歓声が上がります。子どもたちのキラキラした眼差しが一番の報酬に見えました。



高津区 末長・子母口・梶ヶ谷こども文化センター



高津区こども文化センター3館と高津区子ども会連合会の共催で「2025たちばな子どもカーニバル」を開催しました。ゲームコーナーや青少年指導員による「ポッチャ」体験、地域の野球・サッカー・バドミントン部の体験教室を実施しました。94名の子どもたちが参加し、最後は抽選会で大いに盛り上がりました。近年、地域の運動部への子どもたちの参加が減少している現状を踏まえ、今回の行事は「まずは体験してみよう」というきっかけづくりとして企画しました。今後も、こども文化センターと子ども会連合会が連携し、子どもたちが安心して地域で育つ場づくりと、地域の活性化につなげていければと思います。

幸区 下平間こども文化センター

みんなでごはん



下平間こども文化センターで開催している「みんなでごはん」は全4回の企画です。きっかけは、夏休みの昼食問題。「お昼のお弁当作りが大変!」という保護者の声や「子どもだけでご飯を食べている」という子どもたちの声に応えました。開催にあたり、職員がチラシを持って地元の飲食店を回って協力を仰ぎ、ワンコインで特別メニューを提供していただいています。夏休みの昼食問題に対して、保護者の負担軽減、地域の協力体制作り、みんなで食べる楽しい時間と、一石三鳥の行事となりました。ポッチャを通して地域と子どもがつながる「地ケアポッチャパーク」に参加される方々と一緒にごはんをいただいた回もあり、地域の方々にこども文化センターの活動を知ってもらえる機会となりました。地域の方々も気軽に子どもたちに声をかけ、顔の見える関係性に繋がっています。



地ケアポッチャパーク

こども文化センターは、地域児童の健全育成を目的とした施設です。

こども文化センターに関するお問い合わせは、各こども文化センターへお願いします。



小学生、中学生、高校生等の居場所づくり

児童が安心して利用できるスペース、仲間づくりの支援をします。

児童を対象とした行事等の開催

まつり、コンサート、ボードゲーム大会など、様々な体験活動、児童の事業企画への参加、乳幼児親子や高齢者との交流行事などを開催します。

多摩区 中野島こども文化センター

中野島こども文化センターのトレーニング室で「中国ごま☆ショータイム」を開催しました。例年行っている幼児サークルとの共催イベントですが、幼児サークルの登録者のほか、こども文化センターを利用している乳幼児親子、振替休日で遊びに来ていた小学生たち、合わせて20名ほどが参加しました。地域にお住まいの、中国ごまの特技を持つ、菊池駿さんが講師となり、様々な種類の技のパフォーマンスを披露しました。技が成功するたびに、会場には大きな拍手が響いていました。このイベントが生まれたきっかけは、菊池さんが、中国ごまの練習場所を探していたこと。技の中には高く飛ばすものもあり、会場探しが難航していたそうです。相談を受け、それなら子どもに教えてはと、地域講師の活動が始まりました。こども文化センターを会場にして、地域の方との交流、外国の文化を紹介する貴重な機会となりました。



中原区 宮内こども文化センター

紙芝居を披露している小学生3人組は「プロジェクト MK（宮内こども文化センター）」のメンバー。題材は地域に伝わる昔話「雨乞いの竜」と「金井観音とお魚屋さん」です。中原区宮内自治会には歴史ガイド委員会があり、宮内こども文化センター職員と出会ったことで「地域に伝わる昔話を子ども向けの紙芝居にしてみよう」というアイデアが生まれ、「プロジェクト MK」が始まりました。歴史ガイド委員長の田村さんは「自治会加入率が低下していく中で、この町の魅力として歴史に注目した。この町で生まれ育った子どもたちには故郷をいいところだったと思ってほしい。バス停の名前だけが残っているような地域の名所はその意味を伝えていく価値がある」と語ります。町の魅力を伝えたい地域の大人と得意な絵を活かしたい子ども、それを支える職員。いろんな人が関わって地域の宝である歴史が伝承されています。



川崎区 藤崎こども文化センター

藤崎こども文化センターで、音楽を通じて地域のつながりを深めることを目的に「フジサキ音楽フェス2025」を実施しました。藤崎こども文化センターにはピアノが置いてあり、普段弾いている子どもたちが発表できる場を作りたい、と思ったことがきっかけです。さらに、様々な楽器を弾けるスタッフがおり、子どもたちに色々な音楽に触れて欲しいとの思いから、地域で音楽に関わる活動をしている方にも声をかけました。町内会の方によるフラダンスをはじめ、いこいの家で活動されている方による大正琴、放課後等デイサービスの皆さんによるトーンチャイム、小学生によるウクレレやピアノ、高校生によるギター、職員によるウクレレやアコーディオンなど、多彩な音色が会場を彩りました。子どもから高齢者まで、世代を超えて楽しめる内容となり、各演奏の合間にはさまざまな楽器に触れる体験も行われ、文字通り「音」を「楽」しみながら交流を深めることができました。



児童を対象とした遊びの支援

けん玉、ドッジボール、卓球などの遊びを通して成長を支援します。

乳幼児サークル等への支援

乳幼児及び保護者が安心して利用できるスペースを提供します。

青少年育成団体、市民活動団体の利用

青少年の健全育成に関わる活動、市民活動の地域拠点として利用できます。